

Vol.19(2021) No.11(05/27)L08

モデルナ社製 COVID-19 ワクチンによる遅発型の局所性過敏反応 — 症例集積研究(短報)

[Delayed Localized Hypersensitivity Reactions to the Moderna COVID-19 Vaccine: A Case Series \(Brief Report\)](#)

Johnston MS, Galan A, Watsky KL, et al.

【JAMA Dermatol. 2021 May 12】-peer reviewed(査読済み)

(要旨)

◇研究デザイン, セッティング, および参加者

この後ろ向き症例集積研究は、米国コネチカット州ニューヘイブンにある三次医療施設のイェール・ニューヘイブン病院で、2021年1月20日～2月12日に局所性の皮膚の注射部位反応で紹介されて来た患者16人を対象に実施された。

◇主要アウトカムと評価指標

各患者の人口統計学的情報、簡略な関連病歴、臨床経過、および治療(受けていた場合)に関するデータを収集し、皮膚生検標本1点の病理組織学的検査の所見を検討した。

◇結果

患者16人[年齢中央値38[範囲:25～89]歳、女性13人(81%)]のうち、自らの認識として14人が白人、2人がアジア人であった。遅発型局所性皮膚反応は、モデルナ社のCOVID-19ワクチン接種後、中央値7[2～12]日目に発症した。これらの反応は、注射部位またはその近傍に発生し、そう痒、疼痛、浮腫を伴う淡紅色の局面(プラーク)として記載された。ファイザー社/BioNTech社のワクチンを接種した参加者はいなかった。皮膚生検の結果、リンパ球と好酸球を含む主に血管周囲の軽度の細胞浸潤がみとめられ、皮膚過敏反応に整合していた。1回目のワクチン接種で反応がみられた参加者(16人中15人)のうち、ほとんど(11人)が2回目のワクチン接種でも同様の局所性注射部位反応を発現し、多く(10人)で2回目の反応の方が1回目より早く発症した。

◇結論と関連性

この症例集積研究の臨床的および病理組織学的所見から、モデルナ社のCOVID-19ワクチンによる局所性注射部位反応は、遅発型の過敏反応であることが示された。これらの反応は、2回目の接種後では1回目より早く起こる可能性があるが、自己限定性(self-limited)であり、ワクチンによる重篤な有害事象には関連しない。即時型の過敏反応(アナフィラキシー、蕁麻疹など)とは対照的に、これらの遅発型反応(「COVIDアーム」と呼ばれる)は、その後のワクチン接種の禁忌ではない。